

さけ・ます資源増大対策調査事業（サクラマス）
 （サクラマス幼魚回遊生態調査）
 静 一 徳

目 的

サクラマス幼魚の定置網での混獲実態、北上期の回遊生態を把握する。

材料と方法

2024年4月～6月に尻労にて、大型定置網で混獲されたサクラマス幼魚を漁業者の協力で日付別に採集した（図1）。採集した幼魚は-20℃で冷凍保存した。冷凍サンプルは内水面研究所へ搬送し日付別の尾数を確認した。また胃内容を分析し、サクラマス幼魚の胃内容物タイプを魚類、魚類+甲殻類、甲殻類、軟体動物の4タイプに分けた（空胃を除く）。日別の操業の有無確認のため、操業記録の提供を受けた。尻労漁港外海側に設置した水温ロガーにより1時間間隔で表層水温を計測した。



図1. サクラマス幼魚調査地点

結果と考察

4月1日～6月11日に採捕されたサクラマス幼魚は合計137尾であった（図2）。採捕日の日平均水温は8.2℃～12.3℃であった。日平均水温が13℃を超えた6月中旬以降はほとんど採捕が無かった。過去の調査でも表層水温13℃前後を境にサクラマス幼魚の入網が無くなることを確認されており¹⁾、サクラマス幼魚の北上回遊と表層水温との間に密接な関係があることが示唆された。

サクラマスの胃内容物タイプは4月に甲殻類の割合が高く、5月に魚類の割合が高まる傾向がみられた（図3）。

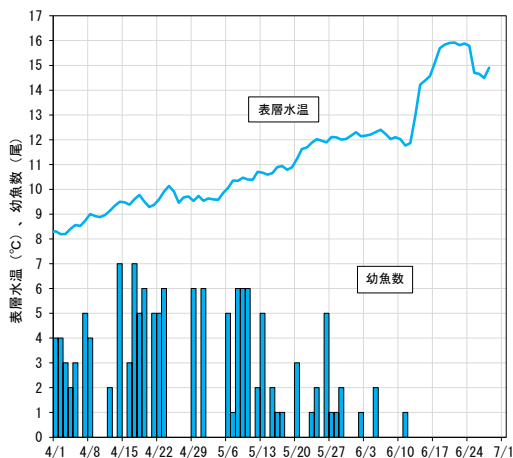


図2. 表層水温とサクラマス幼魚採捕数（尻労）

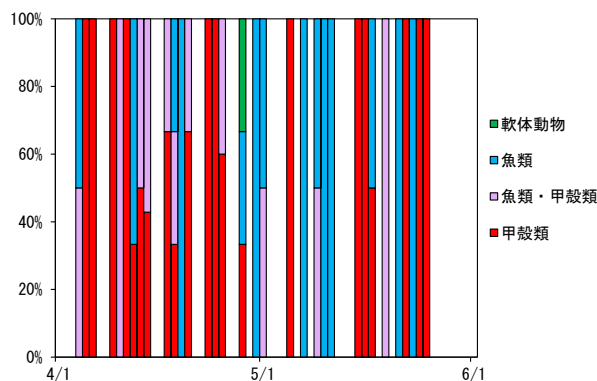


図3. サクラマス幼魚の胃内容物タイプ
 （2024年尻労）

謝 辞

調査にご協力いただいた尻労漁業協同組合の吉田漁業部、川端博昭氏に御礼申し上げます。

文 献

1) 静一徳（2021）サクラマス幼魚回遊生態調査．平成29年度青森県産業技術センター内水面研究所事業報告，35.